

「リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議」議事録

1 日時 令和6年3月27日（水）15時30分～17時

2 会場 オンライン開催

3 出席者

【県】

（県庁）阿部知事、清水企画振興部長、柳原企画振興部次長、小山企画振興部参事（デジタル化推進担当）、小林交通政策局長、松本県民文化部参事（学び担当）、諏訪環境部長、滝沢産業労働部次長兼参事、小林観光部山岳高原観光課長、須藤林務部長、中沢教育委員会教育政策課長、斎藤リニア整備推進局長、佐藤専務理事（長野県観光機構）、細野南信州地域振興局副局長

（飯田合庁）丹羽南信州地域振興局長、唐澤飯田建設事務所長

（伊那合庁）布山上伊那地域振興局長、石田伊那建設事務所長

【市】佐藤飯田市長、白鳥伊那市長、伊藤駒ヶ根市長

【南信州広域連合代表】下平豊丘村長

【上伊那広域連合代表】小田切宮田村長

【オブザーバー】向井南木曾町長（木曾広域連合）、渡邊木曾地域振興局長

4 発言要旨

◆あいさつ

【阿部知事（座長）】

- ・リニア関連事業の推進について、それぞれの立場でご尽力、ご協力賜り、深く御礼申し上げる。
- ・これまで、リニアバレー構想や実現プラン基本方針の策定などの取組みを進めてきたが、ここからは、より具体的な地域のビジョンを皆さんと作って、その実現に向けて、全力を挙げていかないといけない。
- ・令和6年度から長野県が主導する中で、土地利用のグランドデザインを策定していく。広域での土地利用のビジョンを策定・共有することで、民間投資をしっかりと呼び込み、リニア駅近郊地域の付加価値を高めるのみならず、伊那谷地域全体の振興発展にもつなげていきたい。
- ・政府においては、リニア中央新幹線を積極的に生かしていこうという機運が高まってきた。リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議を設置し、中間駅周辺をどう地域づくりしていくべきなのか、我々と一緒に検討してもらった体制ができた。
- ・先日、長野県を含む各県が取組内容を提案したところであり、その内容を皆様と共有し、リニア中央新幹線の中間駅は限られた地域であるので、新しい取組みの実証実験を行う地域として、その取組みを通じて日本の中でも未来志向の進んだ圏域にリニア駅を中心とした、伊那谷あるいは木曾谷を含めたエリアをもっていきたい。そのために、地域の取組みを進めていただくのはもとより、広域的な視点で力を合わせて取り組んでいただきたい。我々も積極的に提案をし

ていくが、皆様からも具体的かつ積極的な提案をいただきたい。

- ・リニア開業を地域発展の弾みにしていくのは、多くの皆様の共通の問題意識だと思うので、問題意識を中心に皆さんと意見交換させていただきたい。

◆協議事項

(1) リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議への長野県の提案について

<主な意見等>

【伊藤 駒ヶ根市長】

- ・具体的な話が進んでいることに感謝申し上げる。
- ・駒ヶ根市としては、伊那谷随一 100 万人を集める観光地を柱とした取組みを進めていきたい。ゼロカーボン、環境に優しい SDGs に適した観光地というのは、インバウンドの観光客を迎えるのに必須の条件になろうかと思う。アルプス、駒ヶ岳、市内の交通、地域への足もそうしたものが必要になり、観光そのもの、各ホテルでの SDGs の取組みも必須になる。さらに、県立看護大等を中心とした健康、医療との組み合わせも必要と考える。伊那谷全体で新たな産業が進む中で、そこで働く人たちの癒しをすべて駒ヶ根が引き受けるといふ思いで、癒しと DX と環境が組み合わさる山岳観光拠点として育てていきたい。
- ・国際交流の点では、JICA の訓練所もあるので親和性が高いと考えている。

【佐藤 飯田市長】

- ・県でまとめていただいた構想について、具体的な形で出してもらい、進んだという感想をもっている。実証都市圏というワードが出てきたが、まさにこれから飯田市が取り組んでいきたいことを端的に表していると思う。
- ・まず一つは、信州大学がアクア・リジェネレーション (ARG) を進めており、飯田市としてもしっかり取組みたい。エスバードに水から水素を生成する実証試験地ができるが、リニア駅を中心としてグリーン水素を活用した水循環の実証タウンを進めていく。
- ・空飛ぶクルマの話が出ているが、リニア駅からの二次交通にエアモビリティをぜひ使いたい。飯田市は、航空機産業にも取り組んでいるので、活用の面だけでなく、産業振興と利活用の両方の面で実証できると考えていきたい。
- ・脱炭素先行地域に選ばれ、地域マイクログリッドがメインの取組みになる。将来的には、リニア駅周辺にも展開したい。
- ・リニア駅前広場の整備の中で、屋根を木造でやろうとしている。建築物として、信州長野県らしいというものもあるが、森林資源の活用サイクルを作る象徴的な取組としたい。伊那谷のこれからの強みになる森林資源の活用にもモデル的に取組んでいきたい。
- ・リニア駅周辺にどう民間投資を呼び込むかが今回の一つの大きなテーマだと思うが、これまでリニア駅周辺については、地域の地区計画の中で高さ制限があり、民間投資がしづらいという声をいただいていた。それに対して、リニア駅を降りた時にどう山が見えるかという景観の話

と高さ制限を外すという話をどう両立させるかということで、今回検証を行い、結果を整理したので、活用しながら民間投資を誘導していきたい。

- ・長野県のプランに対して、飯田市としては色々な角度で参画し、リニア駅ができる市なので中心となって取り組んでいきたい。

【白鳥 伊那市長】

- ・伊那谷全体がサステナブルな地域であるということを作っていくべきだと思う。化石燃料や食料にしても海外に依存するのではなく、この地域で賄うことができるという地域づくりがリニアを迎えるに当たってやるべきことのひとつだと思う。
- ・特に小水力については、有利な地形をもっているのと、森林資源が豊富なので、森林を使った小水力に切り替えていくことが大事。伊那谷が連携して、木曾谷も同じだが一つの魅力としてやっていくべきだと思う。
- ・ソーシャルフォレストリーという森林のサイクルを50年サイクルで回していくという取組みをしているが、森の活用は、スピードを上げてやっていかないといけない。木を切って、材を売って、木を植えて育てるということが森林の産業という見方をしているが、残念ながらこの地域は製品化されていない。半製品や製品なり付加価値を付ける産業になっていない。これをやらないと森林の循環は生まれないと思う。これは今後の課題だと思うが、国を挙げてやっていくべきだと思う。
- ・伊那市では、標高3000m以上に、無人のヘリコプターの形をしたVTOLで実験を始めるが、画期的な輸送手段になると思う。これを使った新しい社会の在り方も良いと思う。国の方で、ヘリコプターと同じ航空機という見立てをされてしまうと、部品管理含めて難しくなるので、規制緩和については、ドローンと同じかそれに近い扱いにさせていただき働きかけをしていただきたい。
- ・この地域で取り組んでいかないといけないのが、Maasだと思う。キャッシュレスで一つのカードで全てできるような、一気通貫の仕組みを作っていないといけないので、国が一緒になってやっていくべき。国を挙げてまとめて行って欲しい。
- ・もう一点、リニアの時代になってこの地域に来る人は、事前に学習して目的があってこの地域に来る。その情報発信については、メタバースを作って世界に発信して、その中から選ばれてこの場所に来ると思うので、メタの作り込みを今からしておくべき。

【下平 豊丘村長】

- ・飯田下伊那は、14市町村あり、西部、南部、北部で立地条件が違う。その中でそれぞれがリニアを生かして地域おこしをすることと、全体としてどうするかということがある。全体としてどうするかとなると、同じ町村間では、まとまった形にするのは難しい。ぜひ、県で行司になってもらい一緒になってどうクリアして地域としての全体のバランスをとって発展できるか、モデルを考えて欲しい。

【小田切 宮田村長】

- ・伊那谷には、2つのアルプスや文化、温泉、山岳観光、人形など世界に発信できるものが色々ある。それが面として、うまく発信されていないと感じる。今あるものを伊那谷として、面で発信していくことは、ブラッシュアップすればできると思う。
- ・インフラ整備については、各地区の問題でなく、伊那谷の問題として要望していかないといけない。

【阿部知事（座長）】

- ・国へ提案する際には、個別具体的な固有名詞を挙げた提案にしないと一般論ではインパクトが弱い。もう少し固有名詞を入れて際立たせることが必要なので、各部にお願いしたい。
- ・重なりある提案が出ているので、もう一度、伊那谷全体のプランとして再構築していかないといけない。各市町村の取組みで進めてもらうものと、エリアを広げて皆でやるものを作り、国には、これとこれに特に重点的に後押しをという組立てにしないといけない。意識した取りまとめをして欲しい。
- ・伊那谷は未活用資源というか、世界的にもっと発信すれば使える、注目される資源がたくさんある。国への提言をまとめる時にも、各部が市町村長の話も含めて固有名詞を出してほしい。
- ・施策提案の1～8までの挙げ方も見直した方が良い。例えば、VTOL や空モビの話が広域的な交通体系の構築に入っているが、交通だけでなく物流機能も重要であるし、災害時の活用も必要。広域的な交通体系とは違うので、空モビリティとしては県として別で打ち出していき、伊那市も進んでいるので、別枠で出した方が良い。アクア・リジェネーションの話も次世代先端産業に入っているが、かならずしもそれだけではない。空モビの話は、物流も入れて欲しい。
- ・1～8までのタイトルが弱い。タイトルにこれをやりたい、やるんだというのを入れないと、この紙だけ見た人は、一般用語が並んでいて中を見ないと分からない。森林の話も環境に含まれているが、森林政策をこうやると固有名詞に出すとか、ブラッシュアップをして、市町村長や関係する皆さんと共有しないと、これだと印象を与えるものとしては弱い。

【白鳥 伊那市長】

- ・まさにそうだと思う。文字で出すとほとんど分からないが、VTOL やソーシャルフォレストリーの絵を一枚の中にまとめて書き込んでいくと見る人はすぐに分かる。そういう表現の仕方を考えても良い。

（ドローン、空飛ぶクルマ関連）

【斎藤 リニア整備推進局長】

観光面での活用について、現時点で国に出していくイメージをもっているか。

【小山 企画振興部参事（デジタル化推進担当）】

- ・ドローンと空飛ぶクルマ、それぞれあると思っている。ドローンは、人が乗っていないので、物資をどう輸送するか、カメラを付けてどう監視するかなど、人が居ない時や被災した時に使っていくイメージがある。
- ・空飛ぶクルマは、タクシーみたいに安くなるというのは相当先になる。長野県の中でも知名度の高いような観光資源のようなところで、エグゼクティブなお金を払ってでも行きたい遊覧飛行や有名な観光地に行っておいしいものを食べるといったイメージ。
- ・令和6年度は、具体的な構想を皆さんと議論していきたい。ロードマップビジョンを作ったので、議論の方向性として出すことはできると思う。

【白鳥 伊那市長】

- ・VTOL は、試作機をテストしている。中央アルプスの西駒山荘に飛ばそうと計画しているところ。電波の受信具合や全く人が介在しないで荷物をピックアップするところまで来ているので、山岳には使えると思うし、災害、産業としては林業とか、離島に荷物を運ぶとかできると思う。今後、実験を繰り返していく計画。

【佐藤 飯田市長】

- ・白鳥市長から VTOL の規制がヘリコプター並みになると困るという話があったが、空飛ぶクルマの国際ルールを決めようとしているので、長野県からも強く言って欲しい。
- ・天竜川に沿って、山岳地域を使ってなど、具体的な名称を入れて、なぜ、この地域で空モビリティの実証をするのが良いのかを具体的に主張したい。エスバードに航空機用の環境試験機器が揃っており、これを空モビリティに使っていくことになる。具体的な話をに入れていかないと、なぜ伊那谷でやるのかとなるので、具体的に書き込んで欲しい。

（MaaS 関連）

【斎藤 リニア整備推進局長】

- ・MaaS についての意見が出たが、交通の視点から何か発言あるか。

【小林 交通政策局長】

- ・観光と組み、民間（IT、交通など）事業者に入ってもらい、研究・検討をしている。白鳥市長の発言にもあったが、一気に通貫でモビリティの予約から、さらにその先の各観光施設、宿泊施設の予約・決済までできるような全体のシステムができないかと思っている。そうした環境を整備することが重要で、国にも環境整備で支援をいただくのがありがたい。

【佐藤 専務理事】

- ・観光 MaaS の検討会に参加しているが、観光 MaaS のイメージが人によって違うことが分かった。

交通の部分だけを一つのサービスに捉えている方もいれば、消費も含めたワンストップという捉え方もあれば、決済、インターフェースをイメージしている人もいる。イメージがばらついているので、改めて長野県の観光MaaSとしてどういう姿を目指すべきかという目線合わせをすることが大事だと思う。交通プラス観光サービスをセットにする場合は、何を組み合わせるかは慎重に検討すべき。OTAやメタサーチで価格比較をして予約・購入することが当たり前の時代において、比較検討できないセット売りは消費者のニーズに応えられないと考える。

- ・一方で、交通事業者の話を書く中で気づきがあったのは、交通だけの一つのサービスとしてのMaaSだとすれば、それをしても利用者が増えるわけではないので、利便性向上につながるかもしれないが、儲からないから投資対象とならないとのことであった。交通事業者からすると、交通だけのワンストップサービスだけでなく、その他の領域まで広げないと投資できない。交通事業者目線で、交通だけのMaaSが儲けられないから進まないのであれば、これを契機に国の補助を引っ張り、国の補助もあるから利便性向上のためにやろう、それは将来的に利用者の増加にもつながるとい話をしていないと交通事業者は乗ってこない。

(森林関連)

【齋藤 リニア整備推進局長】

- ・森林について、林務部としてどういう取組をされるのか発言をお願いしたい。

【須藤 林務部長】

- ・市長のご発言は、森林づくりの指針とも合致するのでぜひ織り込んで進めていきたい。山の部分だけではなくて、川側の部分も含めて、あるいは、最終消費の部分も含めて、建築基準も緩和されて木造の建築物ができていく時代になっているので、そのようなものを含めたランドデザイン的なものを盛り込むのも一つの方向性だと思う。

【白鳥 伊那市長】

- ・森林は重要な部分と捉えている。林業として成り立たせるために何をしたら良いのかは、とりも直さず、CO2削減に直結するので、世界の潮流に当たると思う。森林を育てて使って組み換え、燃料としても使えるので、全面的に出していく施策が世界の皆さんの注目を集めると思う。長野県がもつイメージは、さわやか、グリーン、水がきれいなど、アドバンテージとして高いものがある。その強みを生かしながら、持続可能な社会、食べるもの、水も、エネルギーも全部自活できる場所だと、出していくことは全県を上げて取り組むべき項目ではないかと思う。その中心にあるのは森林。

【伊藤 駒ヶ根市長】

- ・もう一つの視点に癒しを入れて欲しい。心の癒しが得られるのが伊那谷の良さだと思う。森林の話もそうだが古きものがたくさん残っている。それと現代の技術が共存することによって、

これまでとは全く違う観光地や癒しがここに来ると得られる。先端の中に癒しがあると打ち出してほしい。

- ・中央アルプスは、市街地から1時間で3000m級に達する。こんな山岳観光都市は他にない。その中には、ライチョウがいる。最も簡単にライチョウに会える場所が中央アルプス。最先端の技術と癒しが共存する場所の観点を強調し、他県との競争に勝っていく一つのツールにして欲しい。

【下平 豊丘村長】

- ・伊那谷は、1400年昔まで文献で遡れるが、直下型地震は、遠山地震があっただけ。将来、国として東京の一極集中を直そうという時に、安全なところ、安全とは言い切れないが、確率の低いところは、注目するのではないか。

【小田切 宮田村長】

- ・癒しの話があったが、大鹿歌舞伎、霜月まつりなど、素晴らしい伝統的な文化も大きな財産であり、癒しの一つに入れたいといけぬ。

【阿部知事（座長）】

- ・災害に関連して、リニア中央新幹線は、東海道新幹線の代替で旅客輸送を分散化するのがあるが、とは言え、太平洋側で東海地震、東南海地震が発生した時には機能させないと作る意味がない。国には、地域の優位性を伝えるとともに、これだけ災害の激甚化、多発化が言われるので、中間駅は災害にびくともしない地域していきましょうと、国の政策として推し進めることで、リダンダンシーを確保しようというのは私も前面に出して良いと思う。そういう打ち出しをしていかないと、何のために新たなまちづくりをするのか弱くなる。
- ・癒しや伝統文化の話は、伊那谷の特色・強みであるので、それらを8本の柱に立てていくか、取捨選択して整理していくか、市町村の皆さんと調整しながら進めて欲しい。

(終)